令和７年度 第３回 飯田市産業振興審議会 議事録要旨

１．開催概要

日時：令和７年 11 月 17 日（月） 15 時 00 分～17 時 00 分

会場：飯田市役所Ｃ棟３階 C311～313 会議室

出席者：委員 19 名（名簿は末尾に記載）

２．会長あいさつ（要旨）

原会長より、最終回にあたって以下の通り挨拶がありました。

これまで２回にわたり、物価高騰や人材不足など各分野の課題解決に向けた議論を重ねてきた。本日はそれらを踏まえた答申案の最終化を行う。それぞれの専門性を生かした活発な議論を期待する。

３．協議事項：飯田市における水素利活用の取組

事務局（ゼロカーボンシティ推進課）より、信州大学と連携した「グリーン水素」の実証研究および将来ビジョンについて説明があり、質疑応答が行われました。

【主な説明内容】

(1)背景

信州大学の研究拠点がエスバードに設置されたことを機に、太陽光と水のみで水素を製造する革新的な技術の地域利活用を検討。

(2)目指す姿

2050 年カーボンニュートラル実現に向け、エネルギーの域産域消や関連産業の振興、地域ブランド強化を図る。

(3)今後の展開

11 月下旬以降に「水素利活用ビジョン」を策定し、産学官連携のプロジェクトを推進する。

【主な委員意見】

・コストと支援：民間展開にはコストが課題。導入を促す補助金等の充実が必要（西澤委員）。

・環境と安全性：太陽光パネルの廃棄問題や水素の安全性について、正しい理解と研究が必要（牧内委員）。

・飯田らしい活用：リニア駅周辺だけでなく、電源確保が困難な山間地（大平宿や山小屋等）での活用など、地域特性を活かした検討を（矢崎副会長）。

・産業界との連携：工場の熱源代替としての期待は大きい。産業界と一体となってインフラ化やコスト試算を進めるべき（川手委員）。

４．審議：地域経済活性化の方向性に対する答申案

事務局より、全３回の議論を集約した答申案が示され、委員から以下の修正・追加意見が出されました。

・人材確保の視点：課題である高等教育機関について、単なる「誘致」に留まらず、教育環境を「充実」させることで、若年層が学び、定着・流入する仕組みづくりを強調すべき（三浦委員）。

・広域連携と発信：デジタルサイネージの整備だけでなく、伊那谷・木曽谷・三遠南信といった広域での観光連携や、その対外的な情報発信をより強化すべき（中島委員）。

５．閉会と今後の流れ

審議の結果、本日の意見を反映した最終案の作成は正副会長および事務局に一任されました。

答申時期：令和７年 12 月中旬（予定）

提出方法：正副会長から飯田市長へ答申書を直接提出

【出席委員名簿（敬称略・順不同）】

原委員（会長）、矢崎委員（副会長）、上野委員、池上委員、木下委員、井口委員、山﨑委員、澤柳委員、吉沢委員、新井委員、牧内委員、中島委員、道喜委員、川手委員、中村委員、加藤委員、西澤委員、宮崎委員、三浦委員（計 19 名）